



発行日 令和7年7月10日
 発行元 大山崎ふるさとガイドの会(OFG)
 発行責任者 池内 泉
 連絡先 大山崎町歴史資料館内
 TEL 075 (952) 6288, FAX 075 (952) 6289
 URL <https://www.kyoto-ofg.org/>



第11回ふるさと案内人養成講座 開講！

養成講座実行委員会
 委員長 前原利生

去る5月15日(木)ふるさとセンター3階において開講式が挙行されました。1人でも多くの受講生をと、皆さんの強力な勧誘活動の結果、33名を迎えることが出来ました。感謝に堪えません。

式典は、来賓に大山崎町の南頭融教育長及び浅田拓教育次長、向井宏樹生涯学習課長をお迎えして行われました。

最初に南教育長から大山崎町の観光・文化振興に果たすOFGの役割の重要性について期待の言葉をいただきました。

OFG 池内会長から受講生の皆さんへの歓迎の挨拶、私からは養成講座の概要及び今後のスケジュールの説明、そして既存会員も受講生の皆さんと共に勉強していきたい旨を述べました。



南教育長のご挨拶

大山崎町の向井課長からは「大山崎町市政施行50周年記念誌」(H29)掲載の古写真等を基に、大山崎町の名所・旧跡などの歴史・文化と、産業の概要と今後の発展についての説明がありました。

第1部の締めくくりとして、池内会長から OFG の具体的な日々の活動内容及び今後の取り組みについて紹介がありました。受講者の皆さんは熱心に聞き入っていました。

15分の休憩の後、第2部として、2班の森圭子さんと小西弥生さんにより、「写真でめぐる大山崎の歴史と自然」と題した登山コースと山麓コースのガイド実演が行われました。

両名の軽妙な語りで、受講者の皆さんは画面とその語りに引き込まれた様子でした。受講者のアンケートからは、天王山の麓のこの狭い地域にこれだけの歴史と文化が凝縮していることを初めて知った。とりわけ離宮八幡宮の油神人の歴史や待庵は興味深く、今後詳しく勉強していきたいとの意気込みが寄せられています。

今回の受講生の中から、次代のOFGを支える仲間が沢山出てくることを、会員一同が熱望しているところです。

その為にも会員各人が持たれている知識やノウハウが、後輩の受講生の方々に確実に受け継がれてゆくように、丁寧な説明とアドバイスで指導をお願いするところです。



池内会長の活動紹介

5月～6月の活動実績

- 主なガイド
 - 5月23日(金) 京都SKY大学同窓研修会 26名
 - 5月17日(土) 春の天王山ウォーキング(雨天の為中止)
 - 6月4日(水) 大阪府北部コミュニティカレッジ 38名
 - 6月11日(水) 大阪府高齢者大学 21名
 - 6月21日(土) 大山崎ミニ探訪「山崎合戦の地を歩く」 23名
- 会の行事など
 - 5月15日(木) 第11回ふるさと案内人養成講座 開講
 - 5月26日(月) あちこち学習山歩86 山崎合戦・あれこれ 11名
 - 6月26日(木) 第11回ふるさと案内人養成講座2 講目

活動予定

- 主なガイド予定
 - 9月27日(土) 兵庫県シニアカレッジ「あるこう会」3班
 - *7月14日(月)～9月15日(月) 屋外同行ガイドは休止。8月中の歴史資料館館内ガイドを休止。**
- 行事予定
 - 7月11日(金) 京都府ボランティアガイド団体連絡協議会 総会・交流会(大山崎ふるさとセンター)
 - 7月17日(木) 第11回ふるさと案内人養成講座3 講目

5-6月 ガイド実績

	一般ガイド		主催ガイド		歴史資料館		出前ガイド		定点ガイド		合計	
5-6月	14件	124人	1件	23人	72件	180人	0件	0人	151件	452人	238件	779人
7年度累計	25件	210人	1件	23人	110件	262人	0件	0人	241件	782人	377件	1277人

あちこち学習山歩 86 ～秀吉の道を行く

5月26日(月)は雨の翌日、曇りで涼しく過ごしやすい天気でした。私はお昼から仕事なので、時間の許す限り参加し、陶板画「本能寺の変」「中国大返し」「山崎の戦い」まで見ました。

奥西さんから陶板画とその内容の説明、そして解説をしていただき、秀吉の状況・光秀の心の動きをみんなで考察しました。同期のメンバーも積極的に発言、補足説明をされ、よく勉強されていて自分も見習わねばと思いました。これらの説明により想像が広がって、当時の世界にタイムスリップし、武士の一員になった気分になりました。



今回の学習山歩で、光秀の性格が少しわかった気がしました。謀反を起こしたのは、きっと寂しさから妬

みに駆られたのだらうと思いました。光秀の独りよがりな結局、みんな巻き込まれてえらい迷惑なことになったのだと感じました。

道中で気になる植物(ドクダミ・サンゴジュ・くわの実)があり、スマホで検索してみんなで話してきたのも面白かったです。歴史だけでなく、大山崎の自然や他の話題でもお客様に楽しんでもらえるようなガイドができればいいなと思いました。

途中で帰る時も先輩がついて下さり、何度も声をかけていただき、安全に安心して下ることができました。今後、お客様を案内する時に自分も先輩に倣って、温かいおもてなしができればいいなと思いました。

(3班 安川秋子 記)



～わたしのふるさと～

西国街道(国道171号線)沿いに位置し、高野山真言宗の毘陽寺は731年に行基が建立し【こやでら】とか【行基さん】と地元でも親しまれています。私はその近くの兵庫県伊丹市で生まれ育ちました。

毘陽寺の前身となったのは毘陽布施屋を開き、村人・旅人の飢えや病気の人たちを救った僧行基が創立した畿内49院の一つです。行基は奈良時代に毘陽池など田畑を潤す複数の溜池や灌漑用水も作り、伝道と共に大規模な土木事業も手掛けて、人々から尊ばれ行基菩薩と呼ばれるようになりました。

この毘陽池も昭和47年に野鳥公園として整備され現在も憩いの場として残っています。平成22年には農林水産省の溜池100選にも選ばれています。

こどもの頃『行基さん祭り』が毎年4/2～4/3に有り、この境内で沢山の屋台や露店が出るのが珍しく、幼な友達とワクワクしながら見て回りその楽しさを今でも懐かしく思い出します。現在では朱塗りの山門も見応えがあり威厳を保つ立派なお寺です。

歴史を少し勉強して改めて行基菩薩の偉大さを感じたふるさと記でした。

(2班 公森満子 記)



私のふるすとは、岐阜県大垣市。高校生までもこの地で過ごしました。

岐阜と聞くと、山間部と多くの方は思われるでしょうが、大垣は岐阜県の南部に位置し、濃尾平野の一角。東海道線が通り、大垣駅があります。隣町は墨俣町、秀吉が作った墨俣一夜城があったところ。その東隣は岐阜市、斎藤道三が拠点としたところ。また大垣は、芭蕉の奥の細道のむすびの地でもあります。芭蕉は大垣市船町(伊勢湾に繋がる川船の港町)から船で桑名へ、そして故郷伊賀に戻って行きました。大山崎町、島本町とも関わりのある人物の名を聞くと身近なものを感じます。

私にとって、大垣の思い出は、“水都”大垣です。地面を掘ると、水が地下より湧き出るので、我が家にも井戸があり、年中、日々昼夜湧き出る井戸水が流れていました。夏は冷たく、冬は暖かく感じる、美味しい水でした。

もう一つは、大垣祭りです。古くから職人町、商町として栄えていた、船町、魚屋町、伝馬町、俵町、呉服町、本町といった名の町には曳山があり、固有の芸を披露し、祭りを盛り上げました。私の住んでいた町内にも曳山があり、綱引きをしながら市内を巡ったこと懐かしい思い出です。

(4班 野村輝行 記)



ご存じですか 「大山崎町の巨木」～カゴノキ

2010年6月25日、大山崎町から環境省、全国巨樹・巨木林の会、奥多摩町日原森林館のデータベースに幹周(幹回りの長さ)3.4m、樹高15mとして届けられ、登録されています。

その登録カゴノキは天王山、酒解神社の北側の境内から見下ろせる位置にあります。一般にはカゴノキと称され、カタカナ書きですが、漢字では「鹿子の木」と書き、クスノキ科に属する大木となる樹木です。

文字通りその樹皮には小鹿の肌に似た斑模様が見られ、この名前になっているのです。葉は互生して枝先に集まり、文字通りその樹皮には小鹿の肌に似たまだら模様が見られ、この名前になっているのです。

葉は互生して枝先に集まり、雌雄異株、花は8～9月で赤い実をつけます。今のところ登録されている生育の北限は茨城県で、国内で一番大きなものは愛媛県に

ある幹周9.5m、樹高15mです。府内で登録されている大きなカゴノキは夫々幹周、樹高が福知山市の7.7m、10mや、宮津市の6.47m、15mがあります。

因みに「巨木」の定義とは………?

明確な定義はありませんでしたが、1988年に巨樹・巨木林調査を行うに当たり、「地上から130cmの位置で幹周が300cm以上の巨木を対象とする」と定め、現在ではこれが巨樹の一般的な定義となっています。

(この記事は元会員の藤原琴二さんがOFGだより第117号(2013年7月20日発行)に寄せられたものです。)

